

# 人とテクノロジーの協働による未来

～笑顔溢れる介護現場を目指して～

---

大和ハウスライフサポート

ネオ・サミット湯河原 生活サービス課

発表者

青木 充

パワーポイント

箕田 和馬

# 倫理的配慮

「事例報告にあたり、  
個人情報特定されないよう匿名化し、館長および家族  
に説明し同意を得ました。なお、発表の中で利用者の写  
真を使用しておりますが、写真を掲載した方が、より現  
場の雰囲気伝わると考えた為、同意書にて家族に了承  
を得たうえで使用しております。」



# 【A様の紹介】

取り組み期間  
データ収集

2023. 6/1~2023. 9/30  
職員アンケート・介護負担尺度

《年齢》 86歳 女性

《介護度》 要介護 4

《高齢者日常生活自立度》 A2

《認知症生活自立度》 IIIa

《既往歴》 心不全 アルツハイマー型認知症

《ADL》

- ・歩行は、車椅子使用
- ・食事は、椅子への座り替え、お声掛けし一部介助
- ・排泄は、定時トイレ誘導



- 日中は傾眠傾向で食事、アクティビティの際も目を閉じて過ごされる。
- 認知症状の進行により、お声掛け反応薄い。活気あまりない。

・ A様の状態

認知症状の進行→起居動作や立位介助が軽介助から2人介助になってしまう。



日によってお声掛けに対して応えられたり、  
手すりに掴まって立ち上がったたりする事ができることも！

残存機能を維持向上出来るような  
支援を模索する・・・

立位保持や認知機能に働きかけて  
意欲向上を目指す。

**HUG** を使おう！！



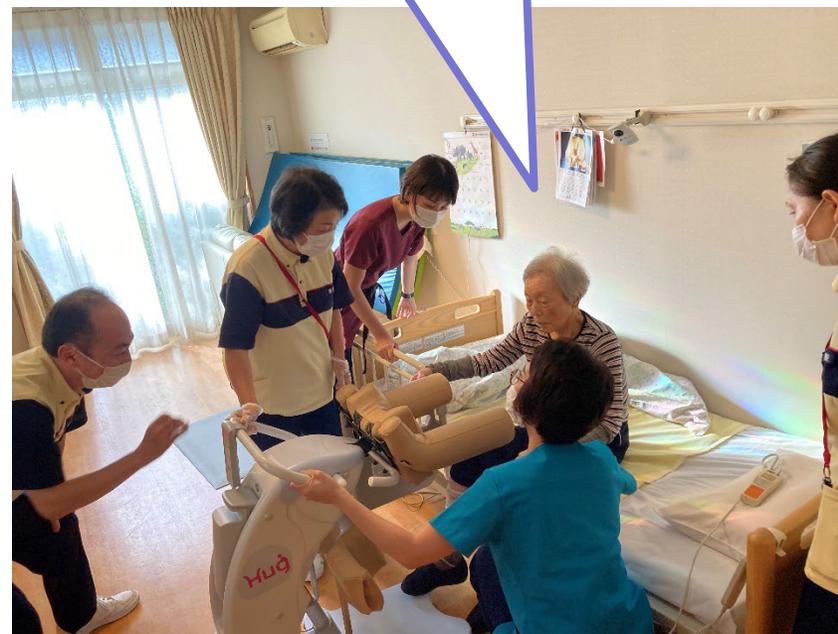


- ご入居様様が快適に過ごせる。
  - 職員の負担軽減。
- 効率的な業務運営を実現していく事を目的にHUGを使い始める。

①ミーティングを実施。  
HUGを正しく  
使用できるように  
講習を行う。



②理学療法士の講習  
A様に対するHUGの  
使用方法を共有する。



慣れないうちは2人介助にて行い。  
職員とA様がHUG使用時の不安感を取り除く。

実践開始

## 実践方法

・ 取り組み① (6/12～7/7約1ヶ月間)

- ・ 7日間を1クールとし、4クール（1ヶ月）実施する。
- ・ 居室→トイレ→食堂→居室の流れで移動、  
移乗時HUGを使用する。
- ・ 1クールごとの最終日 (7日目) はHUGを使用せず、  
起き上がりや立位の様子を観察し、記録する。

- ・ A様がHUGを使用する事により、立位を取る事が容易になったように感じる。



- ・ HUGを使用しなかった場合、足を動かし、身体を方向転換させる動きが低下したように感じた。

メリット → A様の意欲向上、立位を取る機会、保持する機会の確保。

デメリット →足を動かして体の向きを変える機能の減少。

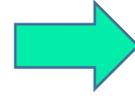
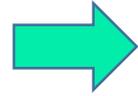
デメリット → 足を動かして体の向きを変える機能の減少。

理学療法士に相談し、デメリット打開策を考察。

- 足を動かして体の向きを変える機会を増やす。
- 出来ない所を重点的に支援していく。

- 昼食時のみHUGは使用せず、車椅子介助にて  
離床→トイレ→食堂の椅子へ座り替えを行い、様子を記録する。

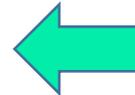
# 起き上がりの様子

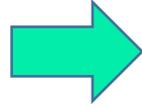
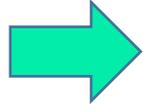


ほとんど一人で  
起き上がる事が出来る

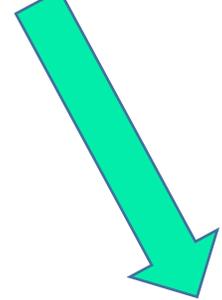


少し支える程度

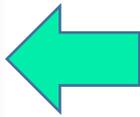
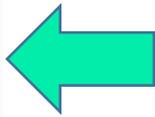




お声掛けし  
支える程度



支えながら、少し誘導



# HUG使用時の様子

before

膝が曲がっている・・・



after

膝が伸びてる！

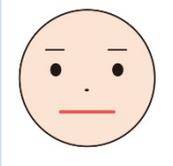
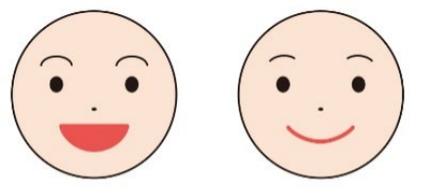




看護師より

- 座位姿勢が保たれているからむせ込みが減った気がする！
- 意欲が向上したからじゃない？



	HUG使用前	HUG使用后
座位姿勢保持	1度の食事で約4回直す	1度の食事で0~1回ほとんど直さない
移乗時間	ベッドから車椅子、車椅子からトイレ 5分20秒	ベッドからHUG、HUGからトイレ 2分50秒
表情		 (図1)

# ★介護負担尺度より★

設問/スタッフ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	合計
設問 1	2	0	1	1	1	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			13
設問 2	3	1	2	2	2	2	3	3	1	1	0	1	0	2	3	0	1	1	0	1	0	2	1	1	2	1	2	1			39
設問 3	3	2	2	1	2	1	1	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0	2	0	0			26
設問 4	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	1			15
設問 5	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	2	1	1	0	0	2	1	0	1	0	0	1	1	1			19
設問 6	0	0	0	1	0	1	1	2	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	2	0	1			17
設問 7	1	2	1	0	0	1	2	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	1	1			18
設問 8	1	3	2	1	2	0	2	1	2	0	1	2	1	1	2	0	1	2	1	1	0	2	2	1	0	0	2	2			35
設問 9	1	0	0	2	0	0	1	0	1	1	1	0	2	1	1	2	1	0	2	2	2	1	1	0	0	2	0	2			26
設問 10	2	2	1	3	2	1	2	1	3	2	1	2	3	2	3	3	2	2	2	1	1	3	3	2	1	2	2	2			56
設問 11	3	2	2	2	2	1	3	1	1	2	2	2	1	2	3	2	1	1	1	1	1	3	4	2	0	2	2	3			52
設問 12	2	1	1	1	0	1	0	1	0	2	1	1	2	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	0	1	2	2	1			32
設問 13	3	2	2	3	2	2	1	3	3	1	2	3	3	3	2	2	3	2	1	3	2	3	1	4	1	2	3	3			65
	22	16	15	18	14	13	19	14	16	13	10	14	15	16	19	14	15	12	11	18	11	16	16	10	5	18	15	18	0	0	413

(表1)

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	合計
	0	0	0	1	1	0	0				8
	1	0	2	2	1	2	0				35
	0	0	2	2	1	2	1				18
	0	0	0	1	0	0	0				5
	1	0	0	3	0	0	0				17
	0	0	0	0	1	0	1				15
	1	0	0	2	0	1	0				10
	1	1	0	0	1	0	0				27
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	2	0	0	1	0	2	0	1	0	2	27
	0	2	0	1	0	1	1	0	1	1	21
	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	12
	0	2	1	1	0	1	2	1	0	1	32
	10	7	3	7	4	11	9	12	4	13	232

(表2)

# まとめ

HUGを使用して 出来ている事  
出来ていない事

どのように  
支援していくのか  
考察する事が重要

HUGを使用すれば全て上手くいくわけではない。

あえて使用しない事によるメリットもある。

TPOを踏まえた使用が介護ロボットの適切な活用法である！！

ご清聴ありがとうございました。  
ございました。

